

令和5年度 第1回多文化共生施策懇話会 議事要旨

日時	令和5年7月28日(金) 18:30~20:00
場所	豊明市役所 新館1階 会議室6
出席者	委員：塚本(会長)、阿曾、嶋原、長山、松本、森、ホアン 事務局：松本課長、川端係長、吉田
傍聴者	0名

1. あいさつ

2. 会長及び副会長の選出について

- ◆ 会長は「豊明市多文化共生施策懇話会設置条例第5条第2項」の規定より委員の互選。長山委員より塚本委員が推薦され、他委員より異議なく塚本委員を会長とする。
- ◆ 副会長は同条第4項の規定により会長が指名、阿曾委員を副会長とする。
(以後、会長が議事を進める)

3. 豊明市の外国人について(資料A)

☆ 資料について事務局より説明

(委員意見)

- ◆ 3,700人のうち日本語を話せる人は何人くらいいるか把握しているか。
→人数は把握していない。韓国や中国国籍の方は在日年数が長い傾向があるため話せる人も多いのではないか。
- ◆ 技能実習生たちは期間限定で帰国する前提なのか。
→期間限定と認識している。最近、制度が変わった可能性があるので詳細は確認してほしい。
- ◆ 技能実習生は、日本語を勉強してから来るのか。
→ある程度身に付けてから来る。子どもや実習生以外の家族はそこまで追い付いていない印象。翻訳等でフォローしていきたいと考えている。
- ◆ 子ども向け図書の購入は何語のものか。
→ポルトガル語。

4. 第2次多文化共生推進計画の進捗について（資料B）

☆ 資料について事務局より説明

（委員意見）

- ◆ 行政として困っていることが各課から出てきているか。
→各課へのヒアリングを実施予定。ヒアリングを基に三者間通話の浸透を図っていききたい。
 - ☆ 窓口部署では、外国人市民への対応について検討を進めており、共生社会課も参加を予定している。
 - ◆ ベトナム人が増えていると感じるが、まず何をやればよいかわからないと気持ちが落ちてしまう。その点をフォローしていきたいと考えているが、ベトナム人通訳の配置などは考えているか。
→共生社会課では、必要性を感じている。本当に必要になるのは、相談事への対応だと思う。ベトナム人は、子育て世代が多くなっており構成が他と違うため問題が顕在化してきている。
 - ◆ 10年以上住んでいる方でも日本語が話せない人もいる。日本語教室にもそのような人が来ている。日本語教室では、細かいことは話すことができないので、先に日本にきた先輩に聞いてみたらと案内しながら運営している。
 - ◆ ベトナム語通訳がいたら安心する。パートナーが日本語を話せない。パートナーが話せるようにしたい。
 - ◆ ベトナム人が多くなっているのには、3つ理由がある。
 - 1 家賃が安い、豊明団地に住みやすい。
 - 2 すでにコミュニティができている。
 - 3 市のサポート（電話通訳）がある。
- 入園について、パートナーがベトナム語や英語で相談をした時、翻訳された資料が出てきて、サポートしてくれたのが嬉しかった。
- コミュニティがすでにできているため、豊明市には集まりやすい。課題としては、日本語を話せるのが両親のうち一方に限られていること。
- ◆ 外国人市民が活躍できる場所があるとよい。他市でもベトナム人が増えており、子ども等への学習はボランティアで対応している。学習については、毎週実施しているため、ネットワークが作られ、その中で対応することができるようになっていく。活動の場所が提供できるようになると良いと思う。

- ◆ 第2次多文化共生推進計画は2025年度が最後になり、それで終わりなのか。
→2025年度以降の計画は、今後検討することとなる。
- ◆ 企業でもベトナム人が増えているが、ミャンマー人も増えてきている。

5. 電話通訳サービスの利用状況について（資料C）

- ◇ 資料について事務局より説明
- ◇ ベトナム人は、電話できるスマートフォンを持っているのか。
→実習生等は電話番号を持っていない。多くの人が電話よりも直接窓口に行って話を聞けば早く終わると思っている。そのため、電話を使う選択をしないのではないか。
- ◇ ベトナム人に対して、後日連絡を取るための電話番号を聞いても、電話番号を持っていないとの返答があり、電話番号を持たない状況があることを把握した。
普段、コミュニティ内ではどのように連絡を取っているのか。
→Facebookのメッセージャーを通してやり取りをしている。

（委員意見）

- ◆ フィリピン人が利用するツールはFacebookのメッセージャーが多い。
- ◆ ブラジル人はワッツアップを利用している人も多いが、Facebookのメッセージャーを利用する人も多い。
- ◆ 会の中では、Facebookのメッセージャーが有益ということになるだろう。

6. 外国人専用ダイヤル普及用カードの作成について（資料D）

- ◇ 資料について事務局より説明
- ◆ ベトナム語版のカードについて、ベトナム語で翻訳すると文字数が多くなってしまうため簡単な書き方に変えた方が良い。ダイヤル名は無くても十分伝わる。不要な部分も多いと感じるので、簡単なつくりにしても良いと感じる。
→今後の参考にする。
- ◆ （上部の名称）も「豊明市」のみで良かったと思う。
→今後の参考にする。

7. 日本語ボランティア養成講座の実施（資料E）

- ◇ 資料について事務局より説明

8. その他

- ☆ やさしい日本語による資料作成を心掛けていきたいと考えており、言葉の置き換えを進めている。この取り組みを進めていく中でわかりにくい表現等のご指摘や助言をいただきたいと考えている。
- ◆ 台風などの災害情報や避難情報はどのように伝えているのか。
→市ホームページが自動翻訳により多言語対応となっている。

次回懇話会は未定。

(日程が近くなったら調整)